



とべだより

令和8年5月29日

6月号

横浜市立戸部小学校

学校教育目標： それぞれが飛べ みんなで翔べ ゆめいっぱい戸部

『しょうらいのゆめ』

副校長 森岡 丈浩



初夏の風に青葉が揺れ、梅雨入りの便りも聞かれる頃となりました。夏が好きな私は、梅雨に対してこれまであまりポジティブなイメージを持ち合わせてこなかったのですが、今年度はこの時期にしか感じられない空気やにおい、雨の音といった趣を楽しみながら季節の移ろいを感じたいと思います。

さて、先日、あるクラスで子どもたちがキャリア・パスポートを作成している様子を見る機会がありました。キャリア・パスポートとは、小学校から高校までの12年間の学びや活動を記録し、自己理解と将来のキャリア形成を促す「個人ポートフォリオ」です。活動の振り返りや目標設定を継続して書き込み、学校間で引き継ぐことで、自律的な成長と生き方を考える「生きる力」の育成を目的としています。

キャリア・パスポートを作成している子どもの様子を見て回っていると、ある子どもが「うーん、何にしようかな。」と熟考する姿を見かけました。「何を悩んでいるのかな。」と思い、記入欄をのぞくとそこには、『しょうらいのゆめ』と書かれてありました。思わず私もその場で立ち止まり、「うーん。」と一緒に考えさせられる時間となりました。

私自身、今現在、教員として勤めてはいますが、子どものころから決して教員志望だったわけではありません。好きな映画の影響で小・中学生の頃は映画俳優、日本史の学習が好きだった高校生の頃は考古学者、そして大学生で教育実習に行ったことがきっかけで教職を志すようになりました。改めて自分の夢の変遷をふりかえてみると、「なんか恥ずかしいな。」「志望動機が我ながら浅いな。」と苦笑いしてしまうものではありましたが、「その時代ごとに憧れるもの、なりたい自分、やってみたいことがあったことは、幸せなことだったのだな。」とも思いました。

また、文部科学省の推進するキャリア教育では、子どもたちに特定の職業を押し付けるのではなく、やりたいことや自分の未来につながる目標を見つけ、それに向かって努力するプロセスが重視されています。つまり、今、なりたい職業がないからその職業を見つけるということよりも、自分が好きなこと、やりたいこと、なりたい自分をしっかり見つけることを通して、自分の個性や長所に気づき、社会で主体的に生きる力を育てていくことが重要となってきます。

上記のような子どもたちを育むためにも私たち教職員は、子どもたちが「やってみたい」、「解決したい」という意欲がわくような授業を通して、夢や希望を育むことができる学習環境を引き続きつくってまいります。